

道産木材

地材地産

Vol.2

北海道の木を活かした建物と空間

店舗・施設
レストラン 編



地材地消

chi zai chi sho

刊 行 の こ と ば

「地材地消（ちざいちしょう）」って聞いたことがありますか？

「地材地消」とは、地域で生産された木材や木製品を地域で有効利用する取組のことです。

木材は、化石燃料と違い再生産可能で持続的な資源であり、「地材地消」の取組を行うことで、「植えて・育てて、伐って・使って、また植える」といった森林資源の循環利用が進み、地域の林業・木材産業が活性化するなど、様々な経済効果が生まれます。

例えば、「地材地消」で地域の森林に還元された資金で森林の手入れを進めることは、健全な森林の育成や国土の保全につながり、また、木材を外国から運ぶ時よりも発生するCO₂量が少ないことや資源の持続が図られるなど、地域や自然環境に恩恵を与えてくれます。

現在、全国の木材自給率は20数%であるのに対し、北海道は平成12年の34%を底として増加し、平成24年度には56%と半分以上を占めるようになり、道産木材の利用は着実に増加していますが、これまでは製紙用原料や梱包資材が主体であり、今後は、乾燥材や集成材等付加価値を高めた加工により建築材としての利用もさらに進める必要があります。

この冊子は、さらに道産木材が利用されるために、店舗や事務所、レストランに道産木材を使用する際のモデルとなる「設計プラン」としてまとめたもので、2冊目になります。

ぜひ、ご覧になり、道産木材を使った施設を作る際の参考にさせていただきたいと思います。



CONTENTS

01	北見信用金庫 紋別支店	002-005
02	釧路町地産地消センター ロ・バザール	006-009
03	株式会社 札幌ワシダ 新社屋	010-011
04	Proformance Inc.	012-013
05	Hako Dake HaLL	014-017
06	Hako Dake Hiroba	018-019
07	ふきのとう文庫 子供図書館	020-021
08	当麻町 まとまーる	022-023
09	日本キリスト教団 小樽教会	024-025
コラム	Flower Arrangement	026-027
10	大雪 森のガーデン	028-031
11	ファームレストラン 気まぐれな食堂「幸来」	032
12	オーガニック カフェ&レストラン「ニーヨル」	033
13	そば処 ながや	034
14	Western Kitchen	035
15	bi.ble'	036-037
16	森の間 CAFE	038
17	元気カフェ 本の森	039
18	き花の杜	040-041
	マンションのリフォーム	042-043
	ソーラー発電所の木製架台	044
	道産トドマツを使った機能的な屋台	045
コラム	ツリーハウス型 屋外遊具	046
	簡易組み立て式和室「くみたて」	047
	外装材として木材を利用する方法	048-049

店 舗

施 設

レストラン

コ ラ ム



※表紙の写真

〔左〕北見信用金庫 紋別支店

〔中〕Hako Dake HaLL

〔右〕bi.ble'

■ 平成 27 年 3 月 発行

発行：北海道林業・木材産業対策協議会
監修：店舗・事務所等における地域材利用検討委員会
編集：株式会社 碧風舎
印刷：総合商研 株式会社



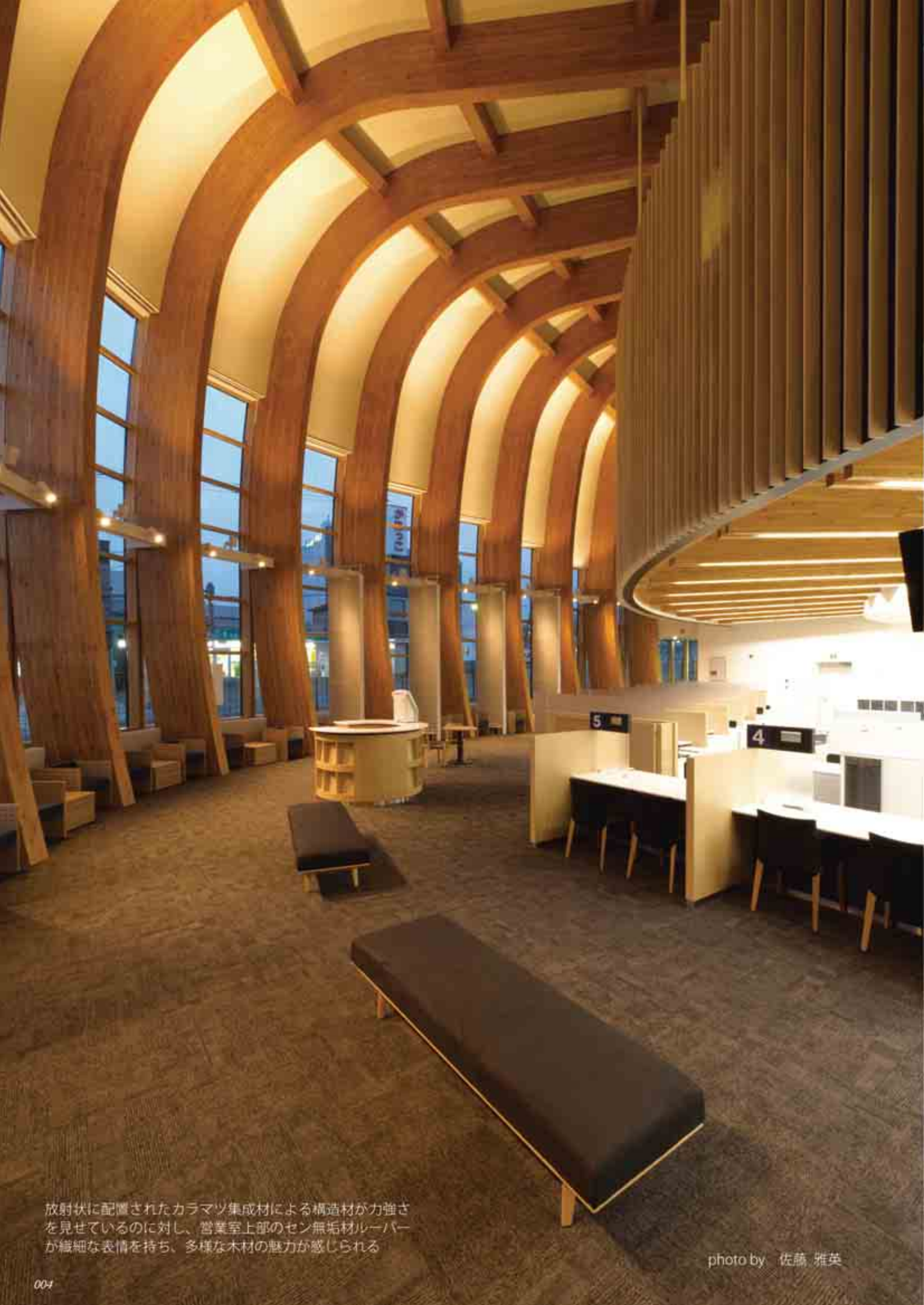
交差点から見た夜景。ライトアップされた構造材の木材がまちに温かい表情を与えている

photo by 佐藤 雅英



放射状に配置された
大断面の柱梁により、
木に包まれた
店舗を実現

北見信用金庫 紋別支店 01



放射状に配置されたカラマツ集成材による構造材が力強さを見せているのに対し、営業室上部のセン無垢材ルーバーが繊細な表情を持ち、多様な木材の魅力が感じられる

photo by 佐藤 雅英



photo by 佐藤 雅英

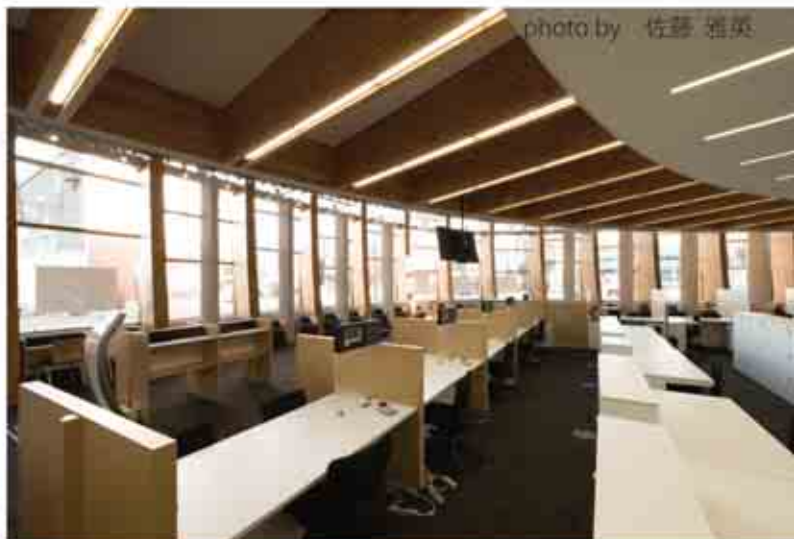


photo by 佐藤 雅英

集成材架構から吊られている2階の休憩室は床、家具に木材を使用している。また、上部窓からは集成材の力強い構造体が見える

【使用木材と施工状況】

- 屋根柱梁、2階床梁：カラマツ構造用集成材 252m³
- 母屋、下地：トドマツ構造材 115m³
- ルーバー：セン仕上材 3m³
- 家具類



photo by 佐藤 雅英

地域材の木構造に包まれた 信金店舗

北見信用金庫紋別支店は、かつて紋別信用金庫本店だったということもあり、北見信用金庫の中でも西オホーツク地域の拠点店舗として位置づけられています。移転新築にあたっては単なる建替えではなく、地域の中核としてプロジェクトそのものが地域の産業に寄与すべく計画されました。

紋別市は「海のまち」として知られていますが、市域の大部分が森林であり、近年は周辺の市町村を含む紋別西部地域で森林認証に取り組み、林業再生を先導している都市でもあります。この背景から地元材を含む道産木材の活用による木構造に取り組むこととしました。

平面計画は地域に開かれた店舗を実現すべく、南東2面の道路どちらにも顔を持つ扇型の待合ロビーを配置しました。ロビーの一部は展示空間のギャラリーとして開放し、店舗に人を誘い、交流のきっかけをつくり、まちの活性化に寄与しています。この空間は2層吹抜けとし、放射状に配置された大断面の柱梁により、木に包まれた店舗を実現しています。風除室から営業室に一歩足を踏み入ると、木の香りとともに柱と梁の壮大な空間が現れます。木造部分は準耐火構造の燃えしろ設計とし、木構造を仕上げとして用い、地場産業のアピールを図っています。

2階は職員の休憩室や会議室などを配置しました。営業室上部の休憩室は待合空間の邪魔にならないよう

に扇状に設け、木梁から吊ることにより無柱の営業室を実現しました。休憩室からは上部のガラス越しに木梁がより見える空間としています。

内装計画は構造材としてのカラマツ集成材の力強さを表現する一方、営業室上部の曲面壁にセン無垢材のルーバーを用いることで繊細な表現とし、木の多様な魅力が感じられる空間としました。

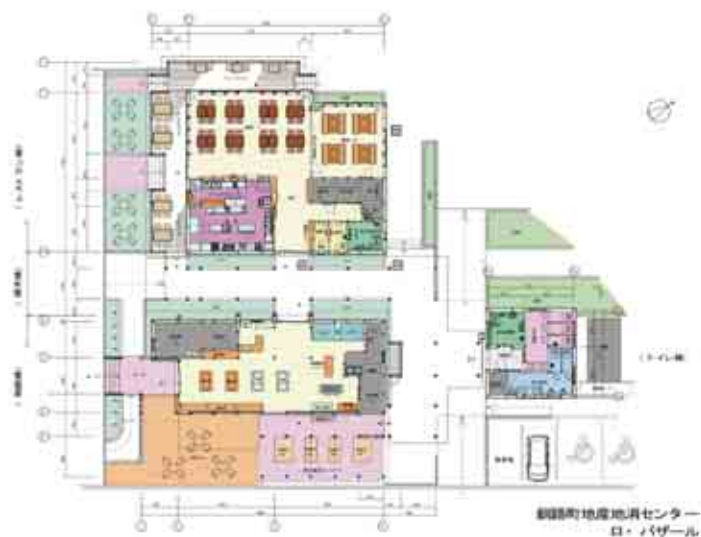
《建物概要》

北見信用金庫 紋別支店

- 住 所：紋別市幸町4丁目
1番地23号
- 設計者：(株)北海道日建設計
- 施工者：北栄・五十嵐・鈴木・
北一共同企業体



緑に囲まれた釧路町地産地消センター「ロ・バザール」外観



レストラン棟、物販棟、トイレ棟からなる別棟3棟を連結し一体化している建物構成

釧路町地産地消センターは、国道沿いに20.34haの敷地面積を有する別保公園内にコミュニティマーケットとして設置されました。その地産地消センターが、この度改修を行い、機能をさらに充実させ、平成25年5月にリニューアルオープンしました。レストラン棟、トイレ棟、雁木棟を新築することで、町の地場製品の普及促進及び地産地消の新たな拠点となっています。

レストラン棟では、地元産の食材を活用したメニューを提供しており、物販棟では、地元産の野菜や牡蠣、鮭など生鮮品の直売発送や実演販売、管内の加工食品やアクセサリ類などの販売を行っています。

公園としての機能を活用するとともに、季節に合わせて野外イベントを開催し、道の駅としての機能も持ちながら、地場産品の情報発信・地産地消拠点として大いに賑わっています。



02 釧路町地産地消センター ロ・バザール

【使用木材と施工状況】

- ・構造材：釧路町産カラマツ 21.8m³
- ・構造用集成材：釧路町産カラマツ 13.5m³
- ・その他の製材：道内産 12.2m³
- ・造作用集成材：釧路町産カラマツ 2.1m³
- ・内装壁：釧路町産カラマツ 12mm厚 87.3m²
- ・造り付け家具類：集成材 6基
- ・木製什器類：集成材 70器

【右頁写真】 レストラン棟内観（主要構造部材全てカラマツを使用。カラマツ羽目板の内貼り、梁材はカラマツ成材を現しとし開放感を創造。家具も地元製作品）





レストラン棟外観（外壁は木材・プラスチック再生複合材を使用し耐久性と木質景観に配慮）



焼肉スペース内観（カラマツ材により地元製作した焼肉コンロ収納テーブルとベンチ）



■ 設計者・施工者の声：

工事監督員

釧路町役場都市建設課 宮越一宝

レストラン棟の設計コンセプトは、「公園の魅力と一緒に美味しい食を体験する」ことで、地産地消をテーマとする施設として可能な限り地元調達を心がけました。

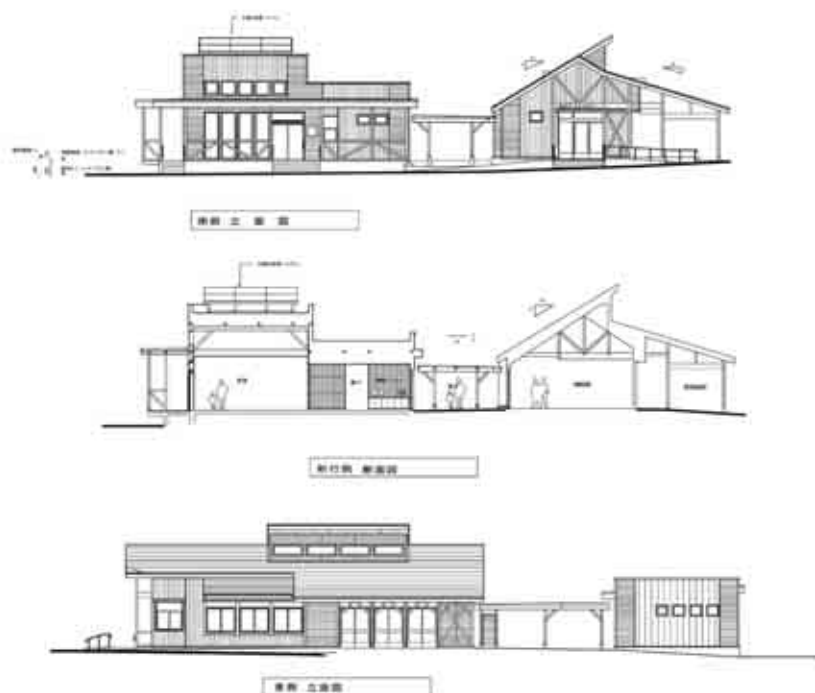
緑豊かな公園風景を楽しむ食事を提供するため、壁面全体に開口部を配し、釧路町産のカラマツを最大限活用するため、在来木造としながらも鉄骨造的な設計をしました。内装内貼りもカラマツ羽目板をふんだんに取り入れ、イス・テーブルも既製品に頼らず地場工場で作りました。

外装材は、木質景観と耐久性を鑑み、ペットボトルキャップと木材を混合成型した釧路管内の製品を採用しました。照明は、LED化により省エネを図り、電球色タイプの採用に

より演色効果を期待すると共に、国道からのライトアップ効果を演出するため、既存施設と一体的な照明計画を行いました。

自然の中でオープンカフェを楽しんでいただけるようウッドテラスを

L型にし、さらに前面にパラソルテラスを設置するスペースを用意して華やかさを演出しています。前面には、広場とミニステージを用意し、各種屋外イベントとの一体的な利活用による相乗効果を期待しました。





03 株式会社 札幌ワシダ 新社屋



【右写真】 まちとダイレクトに繋がるショールーム
【左写真】 静かで落ち着いた商談スペース



1階はラーメン構造、2階は在来軸組工法。2つの構造の差異を一目で感じられる空間



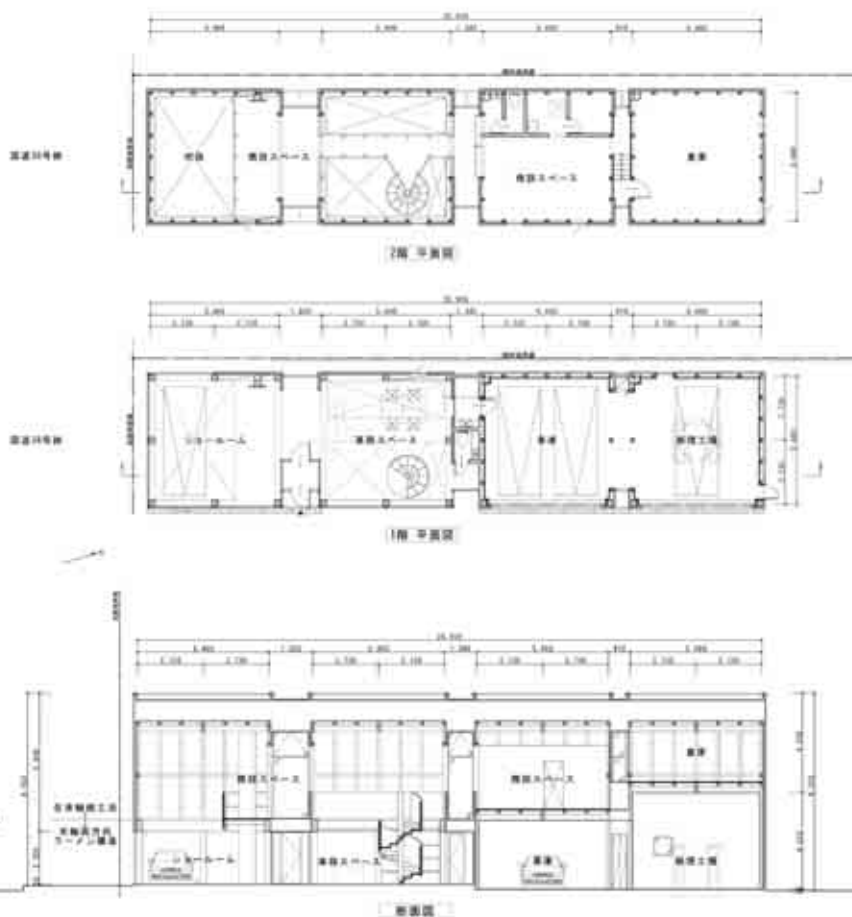
まちを移動する自動車群のような4つの量塊

株式会社 札幌ワシダは、札幌市豊平区の国道36号線沿いにある中古車販売センターです。設計にあたり、まちを軽やかに移動する自動車群のような4つの量塊が連続する空間、また、敷地の奥行方向を強調するように通りに対して直交する建築の形態を想像しました。そのイメージから、「自動車に乗っているような地面から浮いた感覚」がテーマとして導き出されました。

その主題を実現するために、地面に接する1階は極力軽くする

必要があったので、一切の斜材を排した大断面の木軸両方向ラーメン構造を採用することで、まちと建築がダイレクトに繋がる開放的なショールームとしました。逆に2階は静かに商談ができるよう、構造壁を必要とする在来軸組工法を採用し、落ち着いた空間となりました。

この上下二つの異なる構造的な差異をわかりやすく表出するために、全ての材料を「現し」にすることで構造の成り立ちが一目で感じられる空間を標榜しています。



《建物概要》

株式会社札幌ワシダ 新社屋

- ・設計者：畠中 秀幸 × Studio Sinfonica
(株) 都市構造研究所
- ・施工者：(株) ベストホーム
I・Rホーム (株)

Proformance Inc.

04



店舗1階 世界各地の時を刻む時計が印象的

店主は、釧路出身の元プロアイスホッケー選手で、引退後はスポーツ関係のユニフォーム等を作成する会社を設立し、移住先のカナダで生活をしていました。しかし、生まれ故郷、釧路の町が子供の頃の活気を失っているように感じ、カナダでの永住権を放棄して釧路へと戻り、念願の店舗を建設しました。工

房兼店舗と住宅が一つになったこの建物は、店舗が並ぶ華やかな通りに建設されました。

東西南北に軸線を合わせ、主要なエリアは全て南向きにしています。道路に挟まれた敷地を通り抜けられるように、建物はセットバックしながらも通路を確保しています。そのセットバックしたブロックと外壁

デザインは、仕上げの素材やデザインでシンクロさせています。店舗内部は、余計なデザインはせず、仕上げ材料の素材を生かし、倉庫をリノベーションしたかのような空間を目指しました。大きな吹抜けにある螺旋階段や屋根を受ける張弦梁など、機能性を重視した設計が空間のデザインにもつながっています。釧路を



外壁

【使用木材と施工状況】

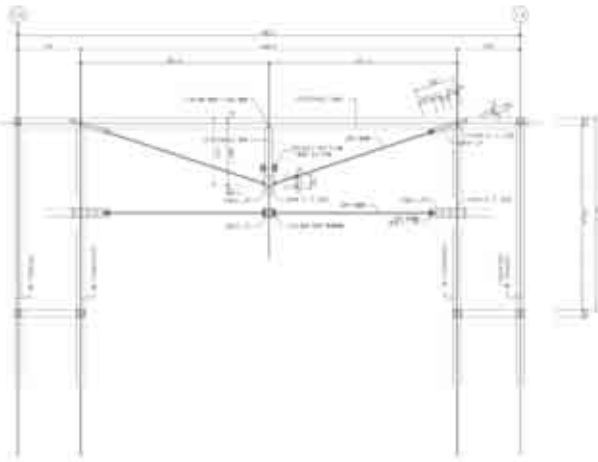
- ・主要柱：カラマツ構造用集成材
- ・張弦梁：カラマツ、トドマツ構造用集成材
- ・1階店舗内壁：トドマツ板突付横貼り
- ・外壁一部：カラマツ板貼り



店舗2階



店舗吹抜け見上げ



張弦梁とカラマツ構造用集成材の通柱



トドマツ板材を突付で貼った内壁、裏にはクラフト紙

元気にしたいという店主の情熱とその情熱で生み出す商品やアクションを北海道の木と北海道の木造建築がサポートします。

■ 設計者・施工者の声：

くりえいと創 代表 眞壁善男

道産材を意識して使うスタンスではなく、当たり前道産材で無垢材

はトドマツ、集成材はカラマツで設計しています。無垢材については施工者からの相談で外材の集成材に変更をする場合がありますが、集成材については道産材のカラマツを使っています。内装材でトドマツの板材、外装材にカラマツ板材を使用しています。

《建物概要》

Proformance Inc.

- ・住所：釧路市文苑1丁目9-2
- ・店舗居併用住宅 木造2階建て
- ・建築面積：139.59m²
- ・1階床面積：134.1m²
- ・2階床面積：98.48m²
- ・延べ床面積：232.58m²
- ・設計・デザイン：くりえいと創
<http://homepage2.nifty.com/create/>

H a k o D a k e H a l l 05



ホール全体イメージ

ハコダケホールは
地域の材や人々の思いが詰まり、
様々なイベントが行われ
地域のエネルギーや街の魅力が可視化される、
函館の新しいメディアの施設として
できあがりました





ホールの内部にはミニキッチンが用意され、
ドリンクやフードサービスができます。
夏季は屋外デッキを利用したジンギスカンも堪能できます

「空港と地域の結節点づくり」 をしたい

この思いからこのプロジェクトは始まりました。年間500万人という人々が観光やビジネスで訪れる函館は道内屈指の魅力ある街です。ただし、空港は街への通過点であり、決して長く滞在して旅の思い出に浸るという施設ではありませんでした。空港を運営する函館空港ビルデング(株)もその点を危惧し、ビジネス、観光利用者だけではなく地域の人々も集まるような魅力ある施設に転換しようという思いがありました。

そうした背景の中、空港3階の展望デッキに面した絶好のロケーションのスペースを利用して休憩や飲食だけではなく、JAZZコンサートやショートフィルム鑑賞会、セミナー、木育のワークショップ等、様々なイベントが行える多目的スペースを計画しました。

「道産木材で囲まれた 豊かなスペース」

空間はワンルームの構成で両端部にステージとミニキッチン、窓側には緩やかにカーブを描くベンチ、その反対側は天井と繋がるグリッド状の飾り棚、という極めてシンプルなしつらえとなっています。

天井部は道産材105角のトドマツのグリッドが覆い、照明器具やプロジェクター、イベントのバナー等が掛けられる装置として整えました。その他の室内もステージやベンチなどに道産材のトドマツ、カラマツ、道南スギを使用し、木の香りたどよう豊かな空間としています。

中でも飾り棚の一部には旭川の林産試験場が開発・実用化した「色彩浮造り合板」を使い、その美しい木目が空間にアクセントを与えています。



ステージでは地元のJAZZバンドによる演奏など様々なイベントが行われています。セミナーやワークショップなど貸切でレンタル使用のサービスもあります

林産試験場が開発した「色彩浮造り合板」(中央)。その他棚のバックパネルにはトドマツ、カラマツ、道南スギを使用し、さながら道産材の展示スペースのようなしつらえになっています



元々スケルトン状態だった施工前の空間。この外の風景と内部空間のポテンシャルを最大限利用したプランとして計画しました

【使用木材と施工状況】

- ・ステージ床・ベンチ：道南スギ 2.5m³
- ・壁面シェルフ・グリッド天井：トドマツ、カラマツ、道南スギ 6.9m³
- ・可動テーブル天板：道南スギ集成材 0.4m³
- ・外部ウッドデッキ：道南スギ防腐処理材 7.7m³
- ・外部テーブル天板：道南スギ材 0.8m³



緩やかに弧を描くベンチが約600mm上がったステージと連続していく、そのステージは屋外デッキへとつながり内と外が曖昧に交わる空間となっています



Hako Dake Hall

《建物概要》

函館空港 国内線旅客ターミナルビル3階

- ・住所：函館市高松町511番地
- ・連絡先：函館空港ビルディング株式会社
- ・設計者：パワープレイス株式会社
- ・施工者：株式会社 大林組



登ったり降りたり覗いたり回ったり、ジャングルジムのようでもあり、迷路のようでもあり、子供たちの好奇心をくすぐります

Hako Dake Hiroba 06

木の感触、
木の匂い、
木の堅さ、
柔らかさ。

木の感触、木の匂い、木の堅さ、柔らかさ。木の柱、木の床、木の天井、木の滑り台。私たちは、ずっと昔から木と共に暮らし、木を切り出し、木を加工し、木の家に住み、木の道具を使って生活をしてきました。だから、いつも木と一緒にいたのです。森は、私たちを育てる大切なもので、木はその豊かな恵みでした。

木という存在を通じて、森のこと、地域のこと、そしてそれを育てて来

た先人達や沢山の関わった人のことを知ること。そして、感じること。

ハコダケ広場は、大人も子供も、木から沢山のことを感じ、豊かな創造性を育む場として作られました。

黒板ユニット、滑り台ユニット、迷路ユニット、広場ユニットなど各パーツに分かれており、広さや空間に合わせて自在に変化させることが可能です。また、置くだけなので建物に絡む工事は無く、短時間で組立可能です。

【木材使用箇所と樹種】

- ・柱、梁：道南スギ
- ・フローリング：道南スギ

《建物概要》

函館空港

国内線旅客ターミナルビル3階

- ・住所：函館市高松町511番地
- ・連絡先：函館空港ビルディング株式会社
- ・設計者：パワープレイス株式会社





函館の地名の起源から想起された箱形状の遊具です。柱や床の道南スギ、黒い鉄材など地域特性を感じさせる素材で作られています

靴を脱いで裸足で遊ぶ子供たち。空港という移動中の場に置かれた木のぬくもりと寛ぎの空間に、傍で見ている大人も癒されます





図書室：カラマツ集成材の梁、ナラ材フローリング 天井・腰壁・家具はシナ材



photo by 安達 治



布の本

布のもつあたたかさ、手作りのやさしさ・ぬくもりが感じられる布の本を作っています

拡大絵本

弱視児のために文字や絵を大きくした本を作っています



【使用木材と施工状況】

- ・構造材：カラマツ 約 35m³
- ・羽柄材：トドマツ 約 35m³
- ・外 壁：カラマツ羽目板 ガルバリウム鋼板
- ・床 ：道産ナラフローリング貼り

《建物概要》

- ・住 所：札幌市中央区北 6 条西 12 丁目 8-3
- ・構造規模：木造 2 階建・454.01m² 在来軸組工法
- ・用途地域：近隣商業地域（準防耐火地域）
- ・用 途：子ども図書館
- ・設 計：株式会社安藤敏郎建築設計事務所（札幌市）
- ・施 工：近藤工業株式会社（小樽市）



ふきのとう文庫は、一般図書室のほか、視覚障害などを持つ子ども達のための大きな字の絵本や布の本・遊具の製作・閲覧・貸出、さらにはうたとおはなしの会などすべてボランティア活動により運営されている図書館です。

札幌市西区平和地区で長く活動を続けた図書館は、札幌駅から遠く、老朽化も進んできたことから、札幌市中心部への移転に合わせ、事務室、拡大写本・布の本の製作作業室と多目的ホールのある施設を新設しました。

建物は、準防火地域でありながら、外壁のうち法的に可能な部分には木質化がなされています。また、梁にカ

ラマツ大断面集成材を使い、広い空間を作り上げているほか、ローコスト建築が求められたことから、特殊な工法は採用せず、道産木材を使用した在来軸組工法で設計しています。

利用者からは、「木がたくさん使われていると温かみがあり、明るい雰囲気になります」とか、「木の香りの中で子供も安心して本を楽しんでい

る様子でした」と言った声が寄せられています。

■ 設計者・施工者の声：

木材発注にあたって、柱や大断面の梁が最終的に露出するので、内装材の収まりを考慮しながら、現場搬入間際まで詳細検討を重ねて、工場加工製作を行い、予定通りに搬入することができました。

ふきのとう文庫 07 子ども図書館



当麻町公民館 まとまーる

08

森 林面積が65%を占める森林資源の豊かな当麻町は平成24年に開拓120周年を迎えたことを機に、高齢化社会を見据え、幅広い世代間の横断的交流ができるようホール機能を併設した公民館を建設しました。

建物は町内で伐採された木材を構造材・内装材に多用し、利用者に木材の良さをPRするとともに、地域材を直接「見て」、「触れて」、「感じる」ことができる町の豊かな暮らしを形づくるシンボルとして期待されています。

愛称の「まとまーる」は当麻中学校の全生徒から募集により決定。「町民みんなが力を合せ（まとまって）当麻がさらに発展するように」との願いが込められています。

本施設は平成26年度に木材利用推進中央協議会が実施した「木材利用優良施設コンクール」において、林野庁長官賞を受賞しています。

建物の特徴

①誰もが使いやすい施設の工夫

建物の前面にあるガラス張りの透明空間「ぼんりゅうもーる」は、町民の文化・学習活動が見え、世代間

交流の促進と誰でも気軽に立ち寄れるように配慮され、公民館は稼働間仕切壁、ホールは電動式観覧席を採用し様々な用途使用を可能にしています。

また、バリアフリーの出入口、サイン表示、オストメイト対応等の多目的トイレの設置などユニバーサルデザインを取り入れています。

②町産材の積極的活用

公民館部分の構造に在来軸組工法を採用することで、地域の技術者による施工が可能となり、設計段階で算出した材種の使用量を基に、工事前年度から伐採作業に着手、総木材使用量の96%に町産材を活用しています。

また、施設内で展示・使用する木製家具についても町有林より伐採された樹齢150年以上のミズナラを、旭川の家具メーカー CONDE HOUSE へ製作依頼し官民協働によるオンリーワン家具を設置しています。

利用者の声

多くの方から、「木の温かみを感じる」、「木の香りがして森の中にいるようだ」という感想が寄せられています。



町産材家具



【使用木材と施工状況】

- ・延床面積：1,434.43㎡（公民館 451.16㎡、ホール 983.27㎡）
- ・公民館：木造平屋建
- ・ホール：鉄筋コンクリート造2階建
- ・木材使用量：111.75㎡（100%道産、うち町産材107.26㎡）
- ・使用樹種：構造材 カラマツ・トドマツ
造作材 カバ・ニレ・タモ・セン

《建物概要》

- ・住 所：北海道上川郡当麻町3条東2丁目
- ・設 計 者：株式会社山下設計
- ・施工者（建築）：盛永・畠山・石川経常建設共同企業体



ぱんりゅうもーる（公民館側）



風除室



公民館会議室



日本キリスト教団
小樽教会
09

日 本キリスト教団小樽教会は、明治18年(1885)に創立された教会で、約130年の歴史があります。今回が3回目の改築で、梁や柱、外壁などに無垢の後志産カラマツ材をふんだんに使用することで、木のぬくもりが感じられる会堂となっています。

また、80年前の旧教会堂の床に使っていた道産ナラ材のフローリングを再利用したほか、歴史が刻まれた重厚な家具類を丁寧に修復し再生させ、新旧の木による記憶装置としての力を生かし、木のぬくもりがそこに集う人を優しく結びつける木育建築をめざしています。

柱・梁などの構造材は材長3.6mの一般製材で構成することを原則とし、大空間となる礼拝堂の屋根はフラットルーフで7.2m以上のロングスパンとなるため、短材を重ねて使用する「合わせ梁」を採用しています。構造材は無塗装の現しとすることで手作り感を出すとともに、トップライトからの光が陰影をつくり、奥行き感を空間にもたらしめます。構造計算上、高い精度が要求される上に無垢の構造材がねじれやすいカラマツを使用するので、伐採時期や製材の仕方、乾燥・加工にも注意を払い品質重視を徹底しました。外壁材は構造材の余材利用とし、荒挽板18mm厚を板幅4種類で大和張にしたものです。

《建物概要》

- ・住 所：小樽市富岡1丁目4-13
- ・延床面積：409.77㎡
- ・構造階数：木造2階建1部RC造
- ・完 成：平成25年11月

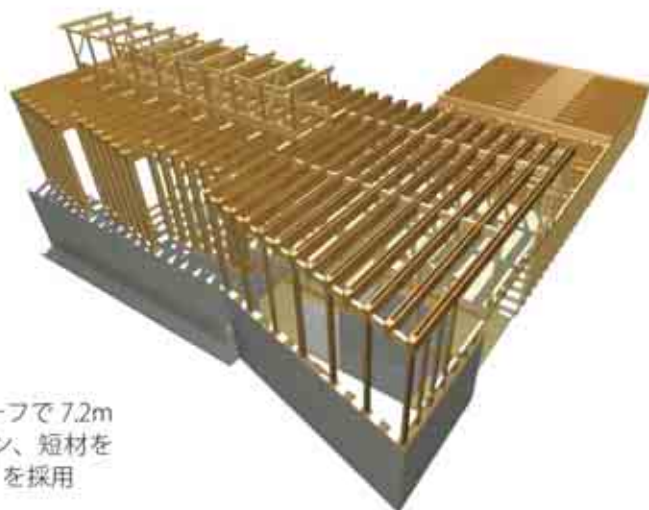
- ・設 計：株式会社環境設計
- ・施 工：札建工業株式会社



小樽教会外観：外壁カラマツ荒挽板18mm厚 大和張



礼拝堂2階ギャラリー側：
1階2.3mはRC造、内部仕上材としてカラマツ構造用合板や三層合板を現しで使用



木構造架構図：
屋根はフラットルーフで7.2m以上のロングスパン、短材を重ねた「合わせ梁」を採用



「wood chip julia」

スギチップの模様や香りを楽しんでいただけるようにガラスの花器に活けています。水を入れても変色せず濁らないので観賞用に適しています。

〔花材〕スギチップ・バラ

■ 普段は見向きもされなかった素材が、フラワーアレンジメントやブーケとして華やかに生まれ変わりました。

ここで使われている素材は、製材工場から出る背板・端材のチップやモルダーがけする際に出るカンナ屑、パークなどです。通常であれば、紙の原料として製紙工場へ運ばれるか、牛の寝糞（ねわら）や堆肥の原料となります。最近では、木質バイオマスの燃料として使われるようになりましたが、いずれも華やかな表舞台とは言えません。それがこのような美しい姿に生まれ変わり、新たな可能性を広げました。

Flower Arrangement

photo by 安井 裕司



「hanaerabi」

樹皮の無骨な質感に多彩な色の組み合わせはとても新鮮でした。特に発色の良い花を選び異素材感を出しています。

〔花材〕トドマツ皮・ガーベラ・ヒマワリ・サンゴアナナス・リュウココリーネ

フラワーアレンジメントやブーケを製作するデザイナーの源さんは、北海道が認定する木育マイスターで、様々な木育活動を通じ、木が安らぎを与えてくれることに気づき、日常生活の中で何度も生まれ変わり浸透していくことを表現できないかと考え、土台や器として作ることを思いついたそうです。当初は粉じんが舞う、乾燥状態が悪いなどの理由から、思うようにならず苦勞をしたそうです。

木材・製材と言えば、住宅、家具と思いがちです。しかし、最近ではトドマツから抽出される成分が血糖値の上昇を抑える効果があることが分かり、また、炭化させたオガ屑が、セシウムなどを吸着することも分かりました。更に、大手生活用品メーカーが、ニオイと汚れをキレイにする成分を葉から発見し芳香剤の開発や販売などを開始するなど、新たな可能性への広がりを見せています。



カフェ棟の横には、テラス席もあり、日の光を浴びながらジェラートやドリンクを楽しめます



カフェ棟では、室内に居ながらにして周りの自然を感じられるようガーデン側全面に窓を取り付けました



回廊の柱は、あえて円柱を使い、温かみのあるやわらかい印象を与えています

平成26年4月、雄大な大雪の山々を臨む美しい丘陵に「大雪森のガーデン」が全面オープンしました。オープンからわずか半年間で、来園者は早くも56,000人を突破しています。園内には、色とりどりの草花が競うように咲く「森の花園」や自然の地形を活かした庭づくりで、心地よい静寂を生み出している「森の迎賓館」といったガーデンをはじめ、ガーデンカフェやガーデンショップといった来園者には嬉しい施設も充実しています。

カフェやショップ、またそれらをつなぐ回廊は、すべて木造で“森”のガーデンにふさわしい空間を作り出しています。使用されている材は、ほとんどが道産カラマツです。外装は黒を基調として、近隣の宿泊棟「ガーデンヴィラ」との連続性を持たせるなど、景観にも配慮しています。内装にも木材をふんだんに使用していますが、天井は薄く白色に塗装しているため、圧迫感を感じません。来園者からは、「木の良い香りがする」と評判です。

また、カフェやショップに入っている什器は、高い技術性とデザイン性を誇る名ブランド、旭川家具の製品です。職人の手によって作られた椅子は、単調にならないよう複数タイプのデザインを用意しており、座り心地の違いを楽しめます。他にも、窓のサッシにまで木が使われているなど、木のぬくもりあふれる店内からは、食材や商品だけではなく、建物、什器に至るまで道産にこだわりたいという思いが感じられます。そうしてこだわり抜いてつくられた空間が、訪れた人に心地よさを与え、森と人、そして地域と人をつなげてくれています。

ガーデンは、森が育つ速度に合わせて、年々より豊かに変化し続けていく予定です。木材もまた、年々深みや独自の味が出てくることで、新たな美しさを見せてくれることでしょう。

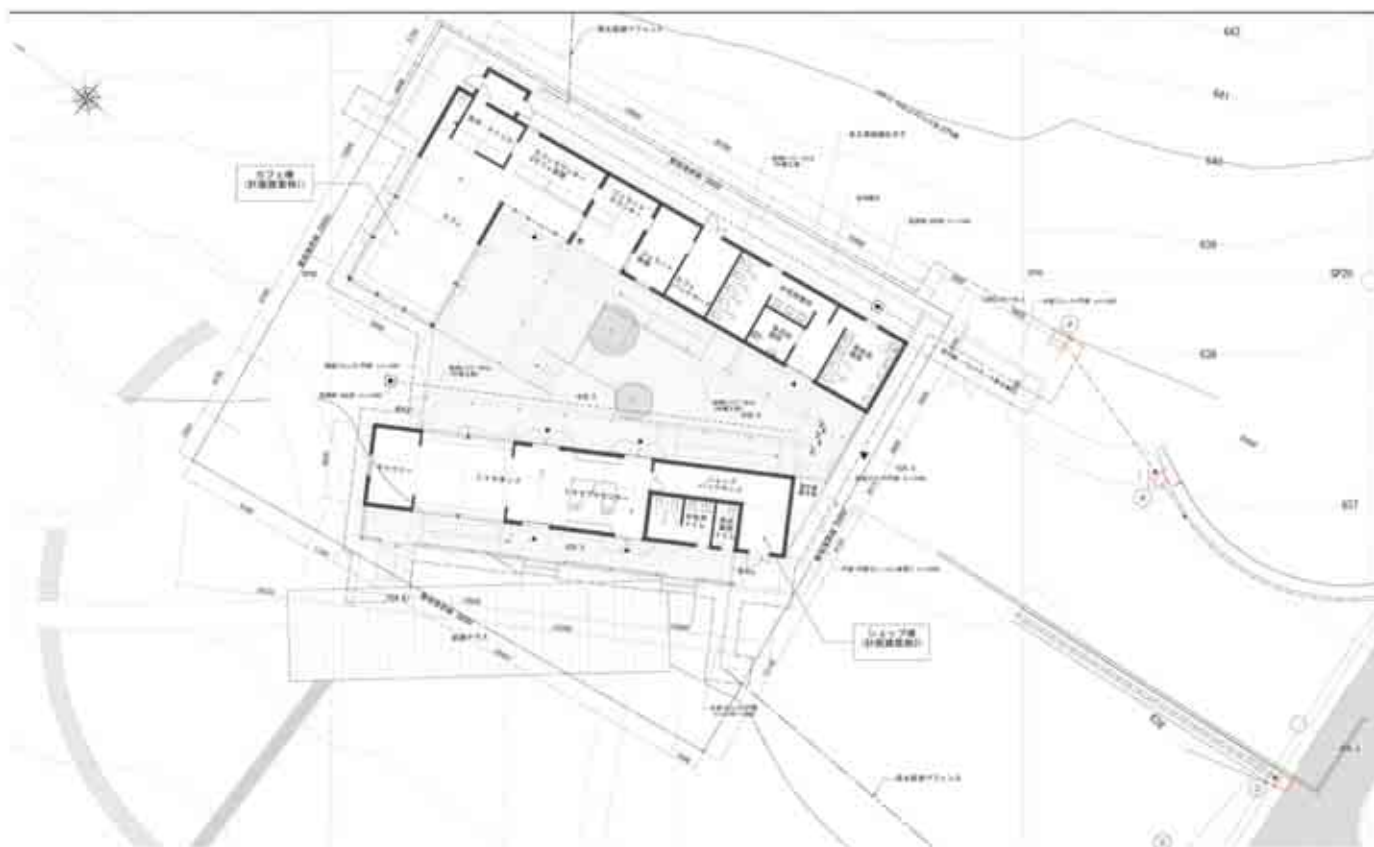
10 大雪 森のガーデン

《建物概要》

- ・住 所：上川町字菊水 841 番地 8
- ・延床面積：311.67m²
- ・構造階数：木造 2 階建 1 部 RC 造
- ・完 成：平成 26 年 1 月 6 日
- ・設 計：株式会社 アイエイ研究所
- ・施 工：(株) 阿部建設



カフェ棟とショップ棟をハの字に配置したことで生まれた空間には、デッキが敷かれ、休憩できるようになっています



【使用木材と施工状況】	
・構造材：カラマツ	59m ³
・内装材：カラマツ合板	4.5m ³
	カラマツ羽目板
・外装材：カラマツ羽目板	7.2m ³
・その他：什器類など	

ショップ棟は、チケットセンターも兼ねており、ガーデンへとつながっています

■ 設計者・施工者の声：

設計イメージ

森のガーデンへのゲートとして、来場者をやさしく招き入れるよう、カフェ棟とショップ棟の2棟によって、程良いスケール感を持つ中庭を

構成しています。来場者にとってこの中庭を中心に一定時間滞留することで、日常を切り離し森のガーデンからのメッセージを感じる心の準備をする場所となるよう計画しています。

◎道産材を使ってみたいの感想

一般的に耐用年数がコンクリートに比べて短いと認識されているようですが、しっかりと通気を確保し、メンテナンスをすることで、木造でも十分長持ちします。





正面窓より自家菜園、左手奥の窓より羊蹄山が鑑賞できます。内装・備品にはオーガニック素材を使用しています

● 虻田郡洞爺湖町成香 455-3

11

ファームレストラン 気まぐれな食堂 「幸来」



丘の広がる大地をドライブして行くと、やがて畑の中にポツンとひときわ目立つ色合いの瀟洒な建物が見えてきます。この建物がファームレストラン気まぐれな食堂「幸来（さくくる）」です。

完全予約制で無農薬有機栽培の自家製野菜をふんだんに食材として使用しているこのお店は、平成24年の年末に増築完成した建物で、内外装や備品に至るまで道産のオーガニック素材にこだわり、大地のエネルギーをお店の中で食事という形として五感でたっぷり味わえるお店です。

このお店の設計・施工者である有限会社バイオプラス西條デザインは、環境と健康に配慮した住空間と商業空間を目指し、エコロジースタイルに特化した建物づくりに努めています。

道産材であるカラマツ・トドマツを構造材から床・壁・窓枠・家具等にふんだんに使用し、内壁もオリジナルホタテ漆喰塗りとなっています。更に贅沢な装飾として正面窓より雄大な羊蹄山が望めますし、暖房も迫力ある薪ストーブを使用し廃熱で床暖房もまかっています。

■ 設計者・施工者の声：

有限会社バイオプラス西條デザイン

用途が「農地」となり都市計画外区域のため、内装制限等は受けませんが、一部天井に木毛セメント板を使用しています。

【使用木材と施工状況】

- ・床材：カラマツフローリング 30mm 厚
中川郡幕別町（有）瀬上製材所
- ・内壁：天井 トドマツ羽目板 12mm 厚 下川町森林組合
- ・外壁：カラマツ 18mm 厚 下川町森林組合
- ・外壁：枕木 70 × 200 × 2,000 旭川市 麻生木材工業（株）

亀 田郡七飯町にある、オーガニックカフェ&レストラン『ニーヨル』は、シェフ兼オーナーが、東京で20年の経験を積み、地産地消と地材地消を実践するため、地元の道南に戻りオープンしたお店です。

店内に入り、まずひと際目を引くのが、調度品の数々と道南スギの梁です。サイズは105×330mmで、白い漆喰とのコントラストにより、力強い印象を与えています。集成材を使いたくないというオーナーの強いこだわりがあり、あえて無垢材を使用しました。無垢の梁は、製材時に反りやすく、乾燥時に割れやすいため、歩を大きく取り、高温乾燥機にて慎重に乾燥をおこない割れを最小限に抑え、製材機にて挽き直しをおこなってからカンナがけをして仕上げました。また、内装材の床材や天井、枠材にも道南スギを使用し、それらがアンティーク調の家具類や漆喰の壁と見事に調和し、豊かで落ち着いた空間になっています。

店舗用途に供する床面積が200㎡未満のため、内装制限を受けず、オーナーの希望通りの内装が出来上がりました。



自然素材の内装や調度品に囲まれ、ゆったりとした店内で雄大な景色を眺めながら、食事が楽しめます

●亀田郡七飯町字軍川570番

12

オーガニック カフェ&レストラン 「ニーヨル」

【使用木材と施工状況】

- ・床材：道南杉/VL壁（特寸フローリング）
40×150×3,650mm 約2㎡（株式会社/Vレキ）
- ・天井：道南杉/VL壁（羽目板）
12×88×3,650mm・¥3,240/㎡、税込・設計価格
約0.6㎡（株式会社/Vレキ）
- ・構造材：道南スギ（火打ち・小屋束・梁）
105×105～330×3,650mm 0.7㎡
- ・その他下地材：道南スギ 0.2㎡



釧路市の隣町、釧路町で昭和62年から地元で愛されているお蕎麦屋さん。今回2代目として30代のご主人へ代替わりするのを機に、内装・外装ともに「本物の木」を使ってリノベーション。「老舗らしさと新しさ」を兼ね備えた店舗として生まれ変わりました。

北国らしい温かみのある空間にすべく、主にこの地で育った北海道のタモ・ナラ・カツラ・エンジュ・ニレなどを使っています。それもできる限り無垢材を使い、曲り材も含め、その素材感・質感を最大限に生かして、内装・外装・テーブル・カウンター・椅子・間仕切りなど一点一点デザインしています。本物だけが持つ美しさをディテールにこだわって丁寧に加工・塗装し、時間とともに重厚感が増して味わいのある空間になるように作っています。

外装は、駐車場の板塀からアプローチ・入口まで招かれているような感覚を持ってもらえるよう演出しています。

■ 設計者・施工者の声：

鈴木健夫デザイン室 鈴木健夫

リノベーションなので再開時に今までのお客さんが違和感を持たないように、基本的にレイアウトは変えていません。入口から空間の広さを感じさせ、座ると適度な囲われ感で落ち着いて食事ができる居心地の良い空間にデザインしています。無垢材にこだわり、そして色合いやディテールにこだわり、未長く愛されるお店となるように作りました。

道産の針葉樹と広葉樹を効果的に使い落ち着いた外観に



カウンター・上がり框と座卓すべて無垢の道産広葉樹

《建物概要》

- ・住 所：釧路町 睦3丁目1番4号
- ・店舗居併用住宅 木造2階建て
- ・建築面積：130m²
- ・店舗面積：115m² 50席
- ・設 計：(有) 鈴木健夫デザイン室

13 そば処 ながや

【使用木材と施工状況】

- ・内 装：化粧梁
- ・装飾等：カツラ/エンジュ/ニレほか
- ・柱・間仕切等：タモ/ナラ無垢材ほか
- ・テーブル・カウンター・座卓等：タモ/ナラ無垢材
- ・外壁・板塀・装飾：カツラ/タモ/トドマツなど



店のオーナーは、函館出身で現在札幌にて建築業を営んでおり、様々な方との出会いの中で九州出身の方とご縁ができ、その方のもっているレシピを譲って頂くことができたので、九州居酒屋を出店する事となりました。

道産材の使用部材は、カウンターの天板に道南スギ、床の補強材にヒノキ土台、付台等の小物にヤチダモやセンなどの広葉樹を使用しています。

珍しいところでは、表面が粗挽き仕上げの外装材を室内のフローリングに使用して暗めの塗装で仕上げています。

お店をご利用されるお客様からは、木のぬくもりを感じ、レトロ調で落ち着くと好評です。



赤とこげ茶を基調とした落ち着いた店内



装飾品ひとつひとつに温かみがあります

■ 設計・施工・オーナーの声： 株式会社クレージュ

お店のコンセプトを考えた際に、『函館(地元)の活性化』を常に意識しました。函館は観光商業を根幹とした町づくりが基本的にあると考えた時に、地元の人たちの憩いの場、楽しめる場所はどうかと考えると、外から改めて見ると、もっと幅広くいろいろできる事があると感じました。そして、函館には無いが、函館に適した店舗づくりをしたいと考え、札幌の店舗デザイナー「soupdesign!」に相談し、異文化や様々な時代の文化が入り交じった函館を表現できる様な店舗を目指しました。



明治期によく建てられていた、和洋折衷な店内はとてもハイカラで函館らしい

【使用木材と施工状況】

- ・床、道南杉ハル壁 (パネル)：
15 × 150 × 3,650mm ・ ¥5,400/m²、税込・設計価格 約0.7m³
(株式会社ハレキ)
- ・ヒノキ土台：105 × 105 × 4,000mm 0.5m³
- ・道南スギカウンター材：105 × 600 × 3,650mm 0.3m³
- ・その他広葉樹：0.08m³

・住所：北海道函館市梁川町 18-20



Western Kitchen

14

九州直送の味噌や醤油を使用し、鶏ガラをベースに豚背骨・鶏半身・野菜の旨味を組み合わせたスープが決め手のモツ鍋が味わえる居酒屋です



bi. blé 15

ビブレは、廃校になった小学校の敷地内に作られた宿泊施設付きのレストランです。「丘のまち美瑛」にふさわしく、小麦畑が広がるなど四季折々見事な眺めを楽しめます。そうした周囲の景色の素晴らしさを邪魔しないよう建物は至ってシンプルです。レストランでは、極力地の食材にこだわっていますが、同様に建物にも地の素材へのこだわりが光ります。レストラン棟、宿泊棟に使用されているのは道産のカラマツです。道産材の持つ魅力が建物そしてこの美瑛の地に新たな命を吹き込みます。

■ 設計者の声：内藤廣建築設計事務所 内藤廣

厳しい気象条件に耐えるために外装は金属貼りです。周囲の緑に合わせて彩度を落とした深緑色にしました。そしてこの建物に個性を与える内部空間の大切なところには道産のカラマツを使いました。特徴のある宿泊棟の外部通路の空間は、この材料で包み込まれるような空間です。そして、主役であるレストラン棟のカフェコーナーの天井も板張りにしました。といっても普通の板張りでは面白くありません。板を通常の半分の中にして使いました。細かい作業ですから大工さんは大変だったと思います。しかし、出来上がってみるとこの板張りが絶妙な空間を作り出しています。普通に張れば、大小の節も目立ち色も一様ではない素朴な野性味のある材料です。それを半分の中で使用するとまったく違う繊細な印象の天井が生まれます。

フランス料理の特徴は、素朴な素材を料理によって文化のレベルにまで仕立て上げるところにあると思っています。その料理の背景になる空間には、それと同期するような配慮が必要でしょう。あの場所の厳しくも美しい風景の中で生まれ育ったカラマツを繊細に扱うことによって、フランス料理のレストランにふさわしい素朴で温かな空間が出来たのではないかと考えています。



ビブレ

- ・住 所：北海道上川郡美瑛町字北瑛第2
- ・竣工年月日：平成26年2月25日
- ・床面積：レストラン棟 309.38㎡ 宿泊棟 186.30㎡
- ・構 造：鉄骨造
- ・設 計：内藤廣建築設計事務所・太田理加設計室
- ・施 工：株式会社 清水組



ビル内の無窓空間にもかかわらず、開放的な雰囲気仕上がっています

森の間 CAFE



・住所：札幌市中央区南1条西2丁目18 IKEUCHI GATE4

札幌市中心街に建つ、アウトドアショップが一堂に会した商業ビル「IKEUCHI GATE」の4階にある喫茶店です。

北海道をイメージさせる白く上品な内観は、トドマツで統一されています。トドマツの丸柱を各所に配置し、その間にトドマツ3層パネルで作ったカフェテーブルと什器を置くことで、適度な解放感のある森の中のティータイムを演出しています。さらに現しで使われているトドマツの香りがリラクゼーション効果を与えてくれます。

カウンターやテーブルの3層パネ

ルは、板を90度交差させて積み重ねて接着した板で、強度と寸法安定性に優れており、木材の可能性を広げる材料です。

ショッピングに疲れたら、癒しの空間でひとときを過ごしてみたいかがでしょうか。

- 【使用木材と施工状況】
- ・什器、カウンター、テーブル：トドマツ3層パネル
 - ・床：トドマツフローリング 15mm厚
 - ・柱：トドマツ集成材円柱材



トドマツ円柱が上部との立体的なつながりと適度な区画を作っています



元気カフェ 本の森

【使用木材と施工状況】

- ・道南スギのフリー板
30 × 600 × 4,200mm 3.2m³ (株式会社ハルキ)
- ・道南スギクロスパネル
36 × 1,000 × 2,000mm 2.7m³ (株式会社ハルキ)
- ・道南スギ 構造用集成材
100 ~ 105 × 230 ~ 750 × 700 ~ 5,600mm

《設計・施工者名》

- ・基本計画・事業コーディネート：株式会社ノーザンクロス
- ・設計：株式会社 pbV
- ・施工：株式会社カンディハウス札幌
株式会社丸愛ファニチャー

- ・住所：札幌市中央区南 22 条西 13 丁目
札幌市中央図書館 1 階ロビー内

元気カフェ本の森は、障害のある方が接客等を通じて様々な方と交流することで、障害に対する市民の理解促進につなげ、また、障害のある方が生き生きと働く姿を見てもらうことにより、民間企業における障害者雇用の促進を目的に、札幌市中央図書館 1 階ロビー内に設置されました。

■道産木材を活用した設計者の感想

スギは、軽量性、耐水性、柔軟性に加え、木目が美しいという特徴を持ちます。

今回、什器にあえて道南スギを使

いました。材中に空気を多く含み温かい触感をもつスギは、紙が主役の図書館に合っていると考えたからです。

当初は、スギの持つ柔軟性が表面損傷のしやすさにつながるため、什器に不向きであると考えていました。しかし、そうした不安は、カウンターの板厚 100 ミリと大きくし、塗膜を厚くするなどの工夫をして克服しました。反対に、柔軟であり、加工が容易であることを活かして、ベンチソファやマガジンラックを不整形多面体という魅力的なデザインにしています。また、スギの軽量性は、什

器の高い運搬性につながり、様々なレイアウトでのロビー利用を実現させています。将来的なメンテナンスとしては表面を全体的に削って平滑に戻すという考え方です。

グレーを基調としたロビーに道南スギの温かな木目がよく映えています



店舗小屋や壁を覆うカラマツの羽目板が
落ち着いた空間を演出しています

CAFE
ふるさと
信楽

き花の杜 18

- ・住所：旭川市南6条通19丁目
- ・竣工年月日：平成10年8月31日
- ・改修前の施設用途：売店・レストラン・酒蔵
- ・改修年月日：平成26年6月25日
- ・床面積：1,365㎡

【使用木材と施工状況】

- ・壁…カラマツ羽目板 3.43㎡
ノースランドパネル（カラマツ） 価格：20,000円/坪
サイズ：11×90×2,730mm 25坪
11×90×3,640mm 71坪
取扱：留辺森木工（株） 北見市留辺森町旭中央28
TEL 0157-42-2018
- ・カフェ（檜部分）…カラ集成材 13.9㎡
価格：690,000円/㎡（工場加工費込）
サイズ：100×100mm
取扱：（株）ノムラ 旭川市神楽3条2丁目 TEL 0166-61-3611



銘 菓「き花」でお馴染みの株式会社 霊屋総本店が平成26年6月に開店した新店舗「き花の杜」です。コンクリート現しのがらんとした空間だった既存施設が改修され、「より旭川らしく」という地元色が感じられるようになりました。

大きな室内空間を庭に見立てた店内には、和洋菓子の物販、カフェ、セレクトショップ、フラワーショップ…とバリエーションに富んだ様々な商品を扱う店舗小屋が配置されています。空間全体が単調な印象とならないように、適所に木材を使って際立たせることで、それぞれの商品に合った販売エリアが構築出来ました。

カラマツ羽目板やタモ造作材で演出された落ち着いた空間で、世界的

に評価の高い旭川家具の椅子に座れば、ゆっくりと時間が過ごせそうです。

■ 設計者・施工者の声：

クライアントからの要望を踏まえ、この大きな空間の中に“どの様なストーリーを作って異なる性格の商品をまとめていくか？”を考えました。実際には内部であるけれども、その中で外部に見立てた“庭の様な空間”と内部に見立てた“落ち着きのある空間”の対比を作る為、材料の選定は重要なポイントでした。広い面積を覆う役割を担ったカラマツの羽目板はくせの無い肌合いを持っていて非常にイメージに合ったものでした。



- 1 北の道菓子ギャラリー（き花の杜）
- 2 「世界にひとつだけ」のケーキとギフト（スイーツコンシェルジュデスク）
- 3 甘い香りの散歩道（Sweet Garden）スイートガーデン
- 4 き花の杜が選んだ「いいもの」たち（き花の杜セレクトション）
- 5 北の野菜カフェ（CAFE文集）ふんらん
- 6 キッチン&スクール（みんなのクックラボ）
- 7 グリーン&フラワーショップ（ミドリとハナゴ）
- 8 旭川クラフトの専門店（クラフトブラウンボックス）
- 9 2階席
- 10 ほくらの遊び場（コトモン）



【上写真】床はカバ無垢フローリング (47m²)。ダイニングテーブル (道産クルミ)、椅子 (ナラなどの道産材)。羽目板・腰壁はカラマツ・トドマツ (0.44m²) を使用しています

【下右写真】防音が万全なシアタールーム

【下左写真】床下は、ウッドファイバーで断熱しています



マンションのリフォーム

名称：マンション (築 28 年)
 構造規模：床面積 86.85m²
 用途：住居
 設計：飯田 公久
 施工：株式会社福住 (札幌市)
 予算：1,500 万円～ 2,000 万円

最近、マンションなどのリフォームの物件が増えてきています。

Wさんは、子どもの頃から暮らしていたマンションを相続し、リフォームしました。

- リフォームに際してWさんは、
- ①地材地消…道内で生産された木材を使って、居心地良い環境を作りたい
 - ②省エネ…照明をすべてLEDに、暖房は

化石燃料以外を選択し、給湯も熱効率の良い物を使用する

- ③高気密・高断熱…壁や床の断熱強化や高性能サッシを使用したい
- という3つの希望がありました。

リフォームフェアや展示会に何度も通い気に入った工務店を選び、約1年かけて打合せを行いました。

具体的には、床には道産のカバ無垢材

と旭川にある林産試験場が開発したトドマツを圧縮して強度を高めたフローリング材を使用しました。この他、腰壁にカラマツとトドマツを交互に張り、道産木材のテーブルや椅子を標茶の工房から、造作家具を旭川の工房から取り寄せています。

暖房はペレットストーブを使っています。「ペレット 10kgで10時間程の運転。部屋全体が暖まるのに時間はかかりま



床には、トドマツ圧縮材のフローリングを9㎡使用しています



ペアガラスを使った木製サッシで断熱効果を高めています



暖房は、ボイラー機能付きペレットストーブで各部屋に温水を循環させています



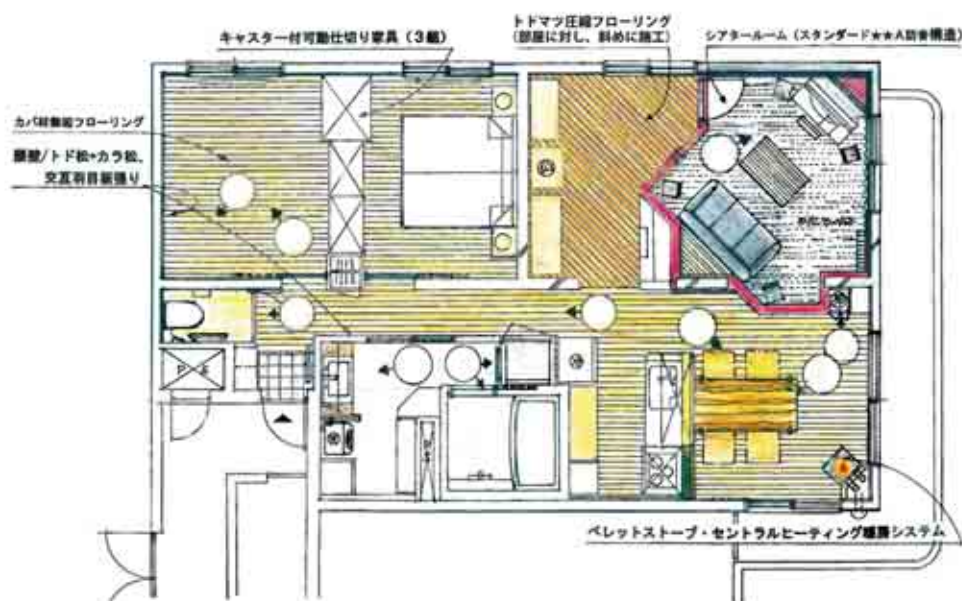
before



after

和室をリビングにし、洋室2部屋を1部屋にして可動式収納で分けています

打合わせには、手書きの図面で何度も修正を重ねました



すが、一度暖まると少ない出力で室温を維持できます。」

また、床の断熱のために、フローリングの下にウッドファイバーを施工しました。床下に配置したセントラル暖房の温水管からの放熱も余すことなく暖房にプラスしています。

リフォーム後は、和室2間を防音仕様のリビングと収納スペースにし、洋室2間は間の壁を取り払い、将来の生活スタ

イルの変化に対応できるよう可動式の収納にしています。

防音を完備したリビングと道産木材に囲まれた空間に、Wさんは、「自分が望むリフォームが出来て非常に満足しています。暖かさのほかに、外の音が聞こえなくなり、リラックス出来ます。これから、木の色合いの変化も楽しみながら過ごしていきたいです。」

とおっしゃっていました。

■ 施工者の声：

マンションのリフォームなので、工事音に注意を払いました。戸や家具などは、現場の造作を少なくして、組立方式にしました。道産の木材を使用し、経年変化も楽しめるので、これから益々満足していただけたらと思います。

ソーラー発電所の木製架台

向きは真南、角度 30 度に向けられたソーラーパネル。
架台は道南スギを使用し、防腐材の加圧注入とドブ漬
け処理の2通りにて施工



株式会社ハルキは、亀田郡七飯町の両館営業所敷地内に太陽光発電施設「ハルキソーラー発電所」を設置し、平成26年3月から稼働を開始しました。株式会社ハルキは、経済産業省の「再生可能エネルギーの固定価格買取制度」(全量買取制度)の設備認定を受けており、本件は本社ソーラー発電所1、2件目に次ぎ3件目の認定を利用した太陽光発電施設で、1～3件全ての発電出力は840kWです。そして、本施設で使用するソーラーパネルの架台に、株式会社ハルキが進める木質事業の一環として、自社で企画・設計・施工した木製架台を採用しています。

主に道南(松前町産)のスギ材を用いており、接合部には住宅用の金物工法を採用しています。スギ材は、耐朽性を高めるために防腐処理を施していますが、加圧注入処理した材と、どぶ漬けの材、両方を採用し、今後耐朽性に差が出てくるか比較検討する予定です。地域の材で木製架台を作るということは、製造・運搬にかかる二酸化炭素の排出量を抑えるだけでなく、地元工務店での施工が可能となり、メンテナンスも容易にすることができます。このように地元地域内での循環型社会を形成に寄与します。

【使用木材と施工状況】

- ・道南スギ 角材 105 × 105 × 3,650mm 16m³
- ・道南スギ 羽柄材 45 × 150 × 3,650mm 6m³



死節や抜節、また多少の面が付いていても、防腐処理されているため耐朽性、強度に問題はありません



架台に木材を使用することにより、軽量化が図られ簡易的な基礎でも十分の耐力を得られています

■第3ハルキソーラー発電所

パナソニック製
ソーラーパネル 324枚
システム容量 82.62kw
年間予測発電量 87,000kwh

□住所：亀田郡七飯町字上藤城

道産トドマツを使った 機能的な屋台

木工の町・旭川で道産のトドマツを使った組立式の新しい屋台が誕生しました。この屋台は、旭川市の(株)ポットラックが立ち上げたブランド「CONITURE(コニチャー)」の製品です。

これまでもCONITUREは、道産トドマツの特性を十分に引き出しつつデザイン性の高い製品を展開してきました。この屋台も、トドマツの軽さを生かし、高い運搬性を実現しています。また、誰でも組み立て可能で、店舗の業態によって仕様が選べます。地域のイベントやお祭りで活躍するのはもちろんのこと、やぐらを外せばベンチやテーブルとして使用できるのでパーツの半分は保管の必要がありません。そのうえ、緊急時はベッドにしたり配給台になったりと状況に応じて3wayに使えます。

■平成26年9月に旭川市で開催された、北の恵み食ベマルシェ2014では、JR旭川駅西口コンコースに17台の屋台が並びました。組立を終えると、改札に降りてこられたお客様から「木の良い香り〜」の声。白く清潔感のあるトドマツの天板に、地域の食品が豊富に並びイベントの3日間を盛り上げてくれました。屋台は鋼製の脚のものばかりではありません。木のみで組み上げた、さらに軽量なタイプもあります。天板を子供たちの目線でも見える高さに設定し、バリエーションを広げました。



トドマツのみで仕上げた屋台は素人でも簡単に組み立てることができる。運搬も容易



北の恵み食ベマルシェ2014 旭川駅構内 駅マルシェ会場



(設計・制作協力：ノワープレイス株式会社)



店舗ごとの味わいを出しつつ、統一感のあるマルシェを演出したトドマツの屋台。

(制作協力：旭川高等技術専門学校)

■CONITUREは、株式会社ポットラックを運営主体とし、設計事務所、デザイナー、家具・建具メーカー、森林保全団体、WEB制作会社を中心に、賛同メンバーにより活動しています。

□住所：

北海道旭川市1条通10丁目2070-1

□連絡先：

株式会社 北海道ポットラック (担当：前田)

□電話：0166-26-5878

□FAX：0166-85-7272

□URL：<http://www.coniture.jp>

□E-mail：info@coniture.jp



photo by ikuya sasaki

ツリーハウス型 屋外遊具



丸 善木材（株）では屋外遊具・オブジェとしての使用を目的として2007年からツリーハウス型屋外遊具の製作をはじめ、今年までに12基を北海道内の公園や幼稚園・観光施設・個人宅などに納入しています。

ツリーハウスはそこにあるだけで子供も大人も惹きつける存在感と魅力があります。枝付の自然木がもたらす2つとない本物の造形が、誰もが持つ「冒険心」をかきたてます。すべり台やブ

ランコのような定番アイテムとは全く別次元の自然の造形と生きた遊び。

「木のぼり・隠れ家・木かげ」「触れる・いだかれる」ツリーハウスを前に子供たちはどんどん想像力を発揮します。

まさに「木育」を具現化したアイテムといえます。

木材（原木丸太）は主要構造に道産広葉樹（ナラ・タモ・カバ等）、自然木の枝付材等を使用し自然の形状を生かすため、完成品の形状は一つ一つ違い、

同じものはありません。

木部全てにACQ加圧注入保存処理、加えて撥水性保護塗装仕上げを施し屋外使用に耐える仕様としています。木部の構造や接合部に使用する金物、ネットの目合い、格子の間隔・高さなどは標準的な公園遊具やアスレチック遊具の仕様に準じ安全性を担保しています。

丸善木材（株）

□住所：釧路郡釧路町桂4-15

□TEL：0154-37-1561

□URL：<http://www.maruzenmokuzaei.com>



簡易組み立て式和室 「くみたて」



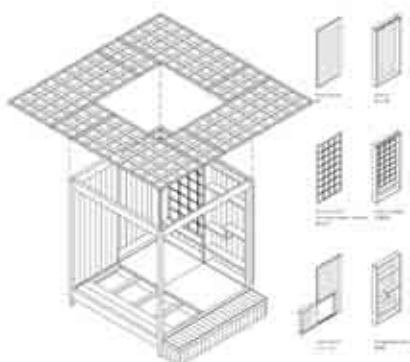
簡易組み立て和室“くみたて”は、
工具を使わず、自由にパーツを組み
み合わせることで、どこでも誰でも組
み立てられる新しいタイプの和室です。
大人2人であれば15～20分で組み立
て可能です。

“くみたて”プロジェクトは、地域材
の活用法を提案するだけでなく、日本の
伝統空間や国産木材の魅力、日本各地の
建具職人のもつ技術を広く普及・継承す
ることを目指しています。

この製品は、宮崎県日向市の海野建

設株式会社と北海道大学建築史意匠学
研究室が共同で開発したもので、内田
洋行北海道支店が販売・事業展開を行
います。

今回製作した北海道仕様の“くみた
て”は、札幌の白崎建具製作所が面パー
ツを製作しています。壁や床の間、障子
など面パーツには、道産のトドマツが使
用されており、地域材の新たな活用法と
して今注目を集めています。社内の休憩
スペースや、避難所などでの活用など今
後幅広い場面での活躍が期待されます。



株式会社 内田洋行
□住所：札幌市中央区北1条東4丁目1-1
(サッポロファクトリー1条館1階)
□TEL：011-214-8511

【右写真】ドライバーなどの工具を使わずに
大人2人で10～15分程度で組み立てること
ができます

